

安全運転アドバイス

夜間・悪天候編

夜間や雨、霧、強風時などの悪天候下の運転は、さまざまな危険がひそんでいます。そこで、危険を回避し、安全な走行を確保するためのポイントをまとめてみました。



霧

まずヘッドライトをつけよう

霧にあつたら、昼間でもヘッドライトをつけましょう。これは、自分の視界をよくするというよりも、他車や歩行者に自分の存在を知らせるためです。フォグランプがあれば、霧の中での透過率が高く、有効です。夜間の濃霧でハイビームを使うと、光が霧に乱反射して極度に見えにくくなる場合がありますので、注意しましょう。

ラインを頼りにゆっくりと

霧の中で頼りになるのは、前の車のテールランプと道路の区分線、外側線、センターラインぐらいのものです。特に自分が先頭の場合は、ヘッドライトを下向きにして、路面のラインを頼りに、これを見失わない程度にスピードを落として走るのがコツです。曲がった道路では、ホーンも十分に活用しましょう。



風

横風に気をつけよう

特に、高速道路を走っているとき、山合いを切りとった“切り通し”やトンネルを出たところ、谷にかかった橋などで、横風、突風によるショックを受けやすいので気をつけましょう。そのショックはかなり強く、思わずハンドルを切りたくなりがちですが、決してあわててハンドルを切らないことです。横風による事故は、風そのものによるものはほとんどなく、あわててハンドルを切りそこねたために起こるのです。



大型車の陰に入ったときは要注意

横風が強いときに、大型車を追い越すのは危険です。強い横風に耐えながらハンドルを握っていて、大型車を追い越すためその陰に入ると、急に風がなくなるため、自分の車が大型車のほうに引き寄せられてしまいます。そして大型車を追い抜けば、また強い横風にさらされ、ハンドルをとられます。このように、横風が強まったり弱まったりすることを十分計算しながらハンドルを握ることが必要です。

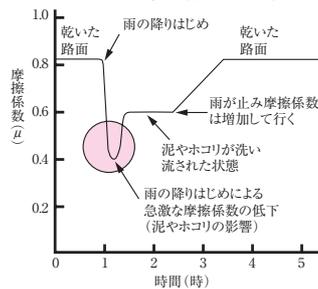


雨天

雨の降り始めがいちばん滑りやすい

雨の降り始めは、道路上の泥やほこり、油などが雨に混じってちようどグリスをぬったような状態となり、いちばん滑りやすくなります。その後は、泥などが洗い流され、かえって摩擦力はあがります。したがって、雨が降り始めてから10分くらいがいちばん要注意です。

■雨によるアスファルト路面とタイヤの摩擦係数の変化



濡れた路面を利用しよう

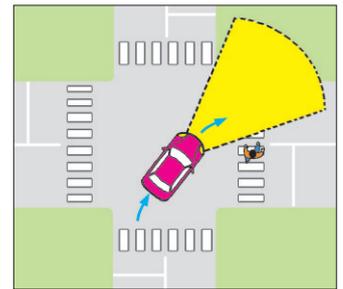
前車の床下の濡れた路面には、前々車のブレーキランプが映るので、早目に情報がつかめ、ブレーキのタイミングが遅れることも少なくなります。



夜間

ライトが照らさない部分に注意

特に、交差点を右折する時などは、曲がる方向をヘッドライトが照らさないため、右側にいる歩行者等を見落とすことがありますので、十分注意してください。



夕暮時は早目に点灯

夕暮時は、急激に暗さを増して、視認力が低下します。早目にライトを点灯して、自車を目立たせるようにしましょう。対向車のライトが照らす路面を見れば、自車のライトが届かない先の様子もよくわかります。